

## 「OB・OGの交流広場」に寄せて

岩城 禎

神戸大学卓球部2009年卒の岩城です。この度は、凌霜卓友会(神戸大学卓球部OB会)代表幹事の福田さんからご依頼を受け、寄稿をさせていただきます。

去年、卓球ライターである伊藤条太さん(東北大学卓球部OB)のお力と、通常では考えられない歯車のかみ合いにより、「卓球ストーカー」として卓球界の皆様を知っていただくことができました。

松島選手との対戦について記者会見が開かれたことに始まり、全チャンネルで一度以上は取り上げられ、NHKに24時間密着してもらえたり、「激レアさんを連れてきた」という30分番組でゲストとして呼んでいただくなど、今までの自分の人生の延長戦で起こっている出来事かと自分自身で疑ってしまうような体験の連続でした。

「M1グランプリで優勝した芸人が、次の日から人生が変わった」という表現をしますが、それに多少近い現象であったのかなと思います。

私自身の日々の生活は、幸い自営の仕事がうまくいっているため、昼に2時間、夕方に2時間、夜に2時間と一日2回か3回の練習を、奈良県だけでなく、兵庫や大阪と場所を変え、欠かさずやっております。

合間に子供たちの送迎をしたり、お風呂に入れたりと家族と過ごすこともできており、奥さんの寛大な考えのおかげで、充実した毎日を送れています。

これからもこの生活は続いていくとは思いますが、立ち止まって考えると、これだけ卓球にのめりこみ続けていられるのは、やはり神戸大学卓球部としての4年間のおかげであると感じます。

中でも、やはり全国公大会、そしてその大会で成績を残すことで参加できる、「海外遠征」(欧州)は一つの大きな目標でありました。ありがたいことに、大学2年生の時には選手として、そして27歳の時には団長として参加させていただき、卓球人生に大きな深みを与えてもらいました。

いわゆる強豪校で厳しい練習をなかば強制的にやらされることもなく、自分のペースで、しかし志の高い仲間がいるというのが、国公立大学卓球部の最大の強みではないかと思えます。卒業しても、ずっと卓球を楽しみ続けている人が多いとも思いますし、自分もその一人です。

だからこそ、昨年のような奇跡が起こったと信じていますし、国公立大学卓球部の卒業生であることは今後も自分の中で誇りでありつづけるはずです。

神戸大学卓球部の大先輩である澤田さん(昭和51年卒)、福田さん(昭和63年卒)をはじめたくさん先輩方に負けないよう、いつまでも「成長」していけるように、日々精進していこうと思えます。

また皆様と国公立大学OB・OG卓球大会でお会いできる日を楽しみにしております。